

児童発達支援 図解実務教材 02

モニタリングシート の書き方

図解と3パターンの作成見本で学ぶ

児童発達支援 単独型事業所向け



はまなす行政書士事務所

2026年10月版

モニタリングシートの書き方

場面を読み 図でつかみ 文例から書き上げる



数字の横に休憩の記録があった

「移動できたのは8回中6回です」。Bの報告を聞いたAは、残る2回の記録を開きました。そこには「耳をふさぐ。静かな場所で休み、その後移動」とありました。

結果と、その場面の条件を一緒に読むと、続ける方法と調整する方法が見えてきます。本書では、支援記録から次の計画を決めるモニタリングを学びます。

対象は児童発達支援の単独型事業所です。悠さん4歳6か月を扱う物語と、氏名・日付・数値・会話はすべて学習用の架空設定です。

02 場面の前後をたどる

書類に残すことは、現場の一場面から見つかります。登場するAは児童発達支援管理責任者、B・Cは支援担当職員、Sは言語聴覚士です。

6回を支えた方法を見つける

Aは、8機会写真と片付け箱が用意されていたことを確認します。Bが「まだ」という表出も記録していたため、追加の遊びを選んだ場面も読めました。結果に条件を添えると、支援の進め方まで振り返れます。

休息した2回にも情報がある

Cは「音が重なったときに耳をふさぎました」と報告しました。静かな場所では休み、その後に移動しています。Aは、写真を続けながら、音と休憩の選択を調整する案をまとめました。

家族の暮らしへ話を広げる

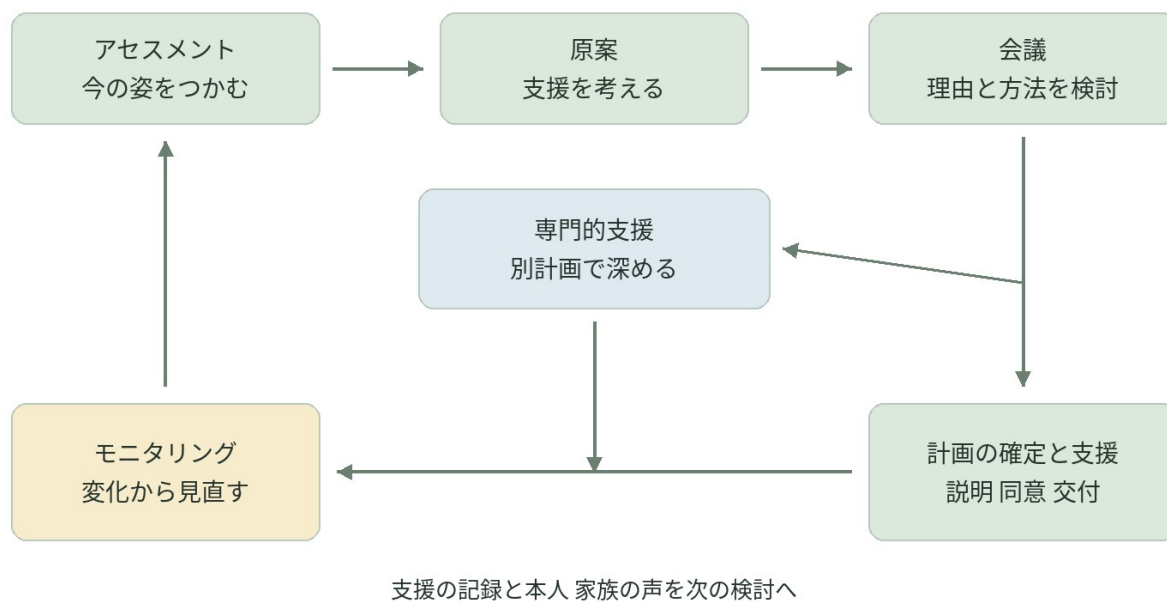
母は「家でも予告すると準備しやすいです。夕方は疲れているので難しいです」と話しました。Aは、帰宅後の休息と、家庭で使いやすい予告を相談することにします。事業所の記録と家族の話が、次の支援と一緒に作りました。

書く前に持っておく視点

計画の評価では、実施した支援と本人・家族の意向を踏まえて見直します。本書では、同じ目標条件の記録を読み、本人の負担や選択と合わせて判断する方法を学びます。

03 この書類が支援につながる場所

五つの書類は、本人に合う支援を続けるために使います。黄色の箇所は、この冊子で特に学ぶ場所です。専門的支援は、全体の計画と関連付けた別計画で進めます。



読む順番を選ぶ

初めて書く方は4～6頁で考え方と聞き方をつかみ、7～12頁で3パターンの作成見本を比べましょう。13～15頁は文章と判断の実践、16～17頁は演習です。18頁で自分の事例を書き、19～20頁で手続と根拠を確認できます。

架空例の流れは、7月2日・3日の面接と観察、7月6日の原案検討、7月7日の説明・文書同意・交付、7月9日の支援開始です。9月29日に見直しを行い、更新へつなげます。

04 いつ、誰が、何を確かめるか

児童発達支援管理責任者が、日々の記録と本人・家族への確認を通じて実施状況を把握します。計画は少なくとも6か月に1回以上見直し、必要に応じて変更します。途中で負担や生活の変化が分かったら、早めに確認する日を設けましょう。

面談と記録をセットにする

本人と保護者への定期的な面接と、結果の記録を組み合わせます。基準上の特段の事情がある場合は、その事情を確認します。本人には写真や遊びの選択を使い、続けたいこと、休みたいことを確かめます。家族には暮らしでの変化と負担を聞きます。

日々の支援 予定した方法を行えたか。参加の様子、表出、負担、支援量を記録する。

途中の確認 欠席増加、強い負担、生活・園の変化等があれば、予定日を待たず面談と再評価を行う。

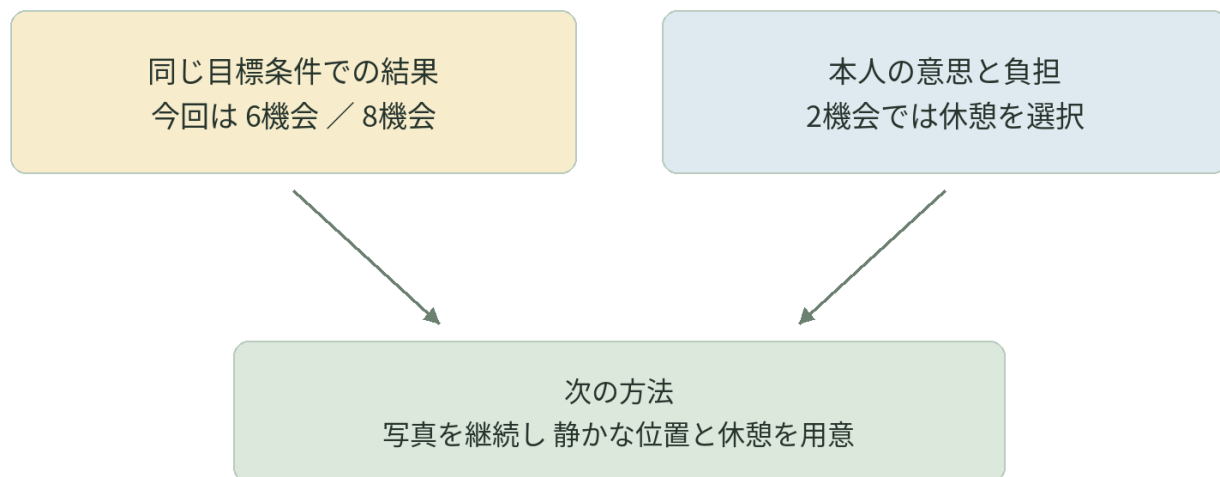
定期的見直し 目標と実施状況を照合し、本人・家族の意向も含めて次の対応を判断する。

変更が必要なら、次の手続まで決める

変更が必要になったら、原案、会議、説明・文書同意、交付までの予定を決めます。安全の確保や直ちに必要な調整は速やかに行い、理由を記録します。モニタリングの結論を、更新手続につなげることが大切です。

05 図から書き方をつかむ

計画の評価では、実施した支援と本人・家族の意向を踏まえて見直します。本書では、同じ目標条件の記録を読み、本人の負担や選択と合わせて判断する方法を学びます。



図を記入する文章へ移す

最初に計画の目標文を読み、場面、助け、目指す姿を確認します。職員間で同じ基準を使うと、記録を比較しやすくなります。条件を変更した場合は、変更内容と時期を明記しましょう。

安心して参加したかは、表情、活動の選択、拒否や休憩の表出、遊びへの関わりから確かめます。静かにしていた時間だけで判断せず、本人がどう過ごせたかを丁寧に見ます。

06 会話から記録の材料を集める

会話は、具体的な生活場면을聞くところから始めます。次の例では、役立っていることを共有し、その条件を記録の材料にします。

A 予告の写真を使ってみて、暮らしはどうでしたか。

母 次にすることを見せると、準備しやすいです。

A 使いやすかった時間帯も教えていただけますか。

母 夕方は疲れているので、先に休むほうがよさそうです。

この聞き方で分かること

家庭での変化と負担と一緒に聞けます。事業所の実数は直接観察、家庭の姿は母からの情報として、情報源を分けて残します。

本人の表出も聞き取りの一部にする

悠さんは、単語や指さし、写真の選択で希望を示します。本人が実際に示した方法と場面を記し、家族の話と合わせて理解します。挿絵のカード選択も、この架空例を理解するための表現です。

07 作成見本 1 悠さん 目標別の評価

確認日は9月29日です。7月7日同意、7月9日支援開始の計画について、9月1～24日の記録と本人・母との面接で評価します。表は、比較する条件をそろえて抽出した機会の記入例です。

計画の目標 写真の予告と選択肢を使い、遊び終了後2分以内に次の活動場所へ移る機会を5機会中4機会程度にする。本人の延長・休憩の意思も受け止める。

実施状況 評価対象8機会で、予告写真、片付け箱、必要時の追加時間・休憩の選択を用意。方法を省いた日は今回の比較対象と分けて記録。

本人の変化 同条件で初期3/5機会、今回6/8機会。音が重なった2機会では耳をふさぎ、静かな場所で休んだ後に移動した。

本人・家族の意向 本人は写真からブロックと休憩を選んだ。母は「家でも予告を使うと準備しやすいが、夕方は難しい」と話した。

評価・判断 到達目安の4/5にはまだ安定して届かず、部分的な改善。母数と期間の違いも踏まえ、変化を継続して確認する。予告は継続し、音と休憩の条件を調整する。

次の対応 声かけが重ならない位置を確保。終了写真と休憩写真を同時に選べるようにする。担当Bが10/6から記録し、11月上旬に途中確認。

この評価では、写真の継続と音の調整を分けて決めています。役立つ方法を残し、負担が増える条件を整えると、次の計画に具体的な改善を渡せます。

08 作成見本 1 悠さん 家族と生活への広がり

計画の目標 困った場面で、ことば・指さし・カードのいずれかを使い、見本の提示 1 回以内で援助を求める機会を 5 機会中 3 機会程度にする。

実施状況・結果 初期 2/6 機会、今回 7/10 機会。今回の内訳は見本を使って 4 機会、自発的に 3 機会。要求後は職員が応じ、支援を求めてよかった経験につなげた。

評価・判断 この条件では目安に到達。自発的な要求と園での使用は、引き続き確認する。次は、なじみのある別の職員にも伝えられるかを確認する。

家族支援の評価 母と月 1 回、家庭で無理なく使える写真を相談。母は予告を試せたが、夕方の疲れが課題。帰宅後の休息と、家庭で続けやすい方法を一緒に考える。

移行支援・連携の評価 母の同意に基づき園と予告方法を共有。園での使用状況は聞き取り段階で、事業所の記録と園の聞き取りを区分して評価する。10 月に園の負担と本人の様子を確認予定。

総合判断の記入例

写真と選択肢は、悠さんの参加を支えている。切替では音と休息の条件を調整する。援助要求では、見本 1 回以内で表出が増えている。次はなじみのある別職員への伝達を確認する。家庭では母が続けやすい方法を一緒に選ぶ。

更新の流れは、9 月 30 日原案検討、10 月 2 日説明・文書同意と保護者・担当相談支援事業者への交付、10 月 6 日支援開始です。この日程は学習用の設定です。実務の記録は、実際に行った日付で残します。

09 作成見本2 芽衣さん 身支度の目標を評価する

芽衣さん 3歳8か月 本人 ID U02 学習用の架空記入例

確認日と対象計画 Aが8月28日に本人・母へ面接し記録を確認。対象は5月14日同意の第1版、支援開始5月18日。比較は8月3日～24日の記録から同じ条件の機会を選ぶ。

計画の目標 靴棚の写真と必要時の見本1回以内の支援で、靴を棚へ入れる機会を5機会中3機会程度にする。来所時の休息も選べるようにする。

支援の実施 B・Cが玄関の静かな待機位置と棚の写真を用意。評価対象7機会では同じ提示方法を使用。写真を用意できなかった日は別記録とした。

本人の変化 初期2/5機会、今回4/7機会。残る3機会は母のそばで休んでから職員と身支度した。人数が多い時間帯に待機の希望が出た。

本人と家族の意向 本人は動物遊びを選び、混雑時には静かな椅子の写真を指した。母は朝の待機場所が助かると話す。家庭で写真を増やす作業には負担を感じている。

評価と次の対応 目安の3/5に対して安定性を引き続き確認する。写真を継続し、混雑時は先に休めるようにする。Bが9月7日から人数と休息後の動作を記録し、Aが10月上旬に途中確認する。

10 作成見本 2 芽衣さん 援助要求と家庭への広がり

芽衣さん 3 歳 8 か月 本人 ID U02 学習用の架空記入例

計画の目標 自然に助けが必要な場面で、写真または身ぶりを使い、見本 1 回以内で援助を求める機会を 5 機会中 3 機会程度にする。

支援の実施と結果 必要な援助を保障しながら写真を本人の届く位置に置いた。同条件で初期 2/6 機会、今回 5/9 機会。今回の内訳は自発 2 機会、見本 1 回で 3 機会。

評価と次の対応 表出が出る条件が増えた。目安と安定性は追加の機会で確かめる。別のなじみの職員への表出も確認し、援助量を区分して記録する。

家族支援の評価 月 1 回の相談で、母と朝の困る場面を整理した。母は靴棚に 1 枚の写真を置く方法を選んだ。継続しやすさを次回面談で確認する。

移行支援と連携の評価 母の同意を得て 5 月 22 日に園の身支度方法を聞き取り、写真の位置を共有。8 月の使用状況は園からの聞き取り段階。事業所の実数と園の情報を分けて扱う。

更新の予定 8 月 31 日に原案を支援担当者等で検討し、9 月 3 日に本人・母へ説明、母の文書同意、母と担当指定障害児相談支援事業者への交付を行う予定。更新支援は 9 月 7 日開始予定。実施後に実際の日付を記録する。

11 作成見本3 陸さん 友だちへの要求を評価する

陸さん 5歳5か月 本人 ID U03 学習用の架空記入例

確認日と対象計画 Aが10月2日に本人・父へ面接し記録を確認。対象は8月10日同意の第1版、支援開始8月11日。9月1日～25日の同条件の2人遊びを評価する。

計画の目標 自然な玩具要求場面で、見本1回以内で相手へ言葉またはカードで希望を伝える機会を5機会中3機会程度にする。

支援の実施 Bが選べる玩具と要求カードを用意し、双方の表出へ応じた。評価対象8機会は2人遊びの同条件。人数が増えた場面は別に記録した。

本人の変化 初期2/6機会、今回5/8機会。今回の内訳は自発2機会、見本1回で3機会。相手が応じるまで待つ場面では、職員の仲介が必要なこともあった。

本人と家族の意向 本人は「車で遊びたい」「一人でも作りたい」と話す。父は伝える姿が増えたと話し、園で困ったときに大人へ相談できることも希望した。

評価と次の対応 同条件では目安に達した。自発的な表出と、人数が増えた場面の使用は継続確認。本人の希望を聞き、2人遊びを継続しながら職員へ相談する手段を加える。

12 作成見本3 陸さん 順番と園への広がり

陸さん 5歳5か月 本人 ID U03 学習用の架空記入例

計画の目標 順番カードを見て必要時の見本1回以内で、次の番まで約30秒待つ機会を5機会中3機会程度にする。別の玩具や休息も選べるようにする。

支援の実施と結果 カードで順番を示し、待つ長さを確認。初期2/5機会、今回3/7機会。4機会は別の玩具または一人遊びを選んだ。本人の選択を受け止め、負担を記録した。

評価と次の対応 待つことの安定性は継続確認。次の番の見え方と玩具の配置を調整する。待ち時間を延ばす判断は本人の反応と実施状況から検討する。

家族支援の評価 父と月1回、家庭の玩具場면을相談。本人へ「使う」「あとで」を聞く方法を試した。父は兄弟の双方に聞く時間が必要と話した。次回は具体的な一場面を整理する。

移行支援と連携の評価 8月14日に父の同意を得て園へ聞き取り、順番の示し方を共有。園での表出は聞き取りによる情報として記載。10月中旬に使用場面と負担を園へ確認予定。

更新の予定 10月5日に原案を会議で検討、10月8日に本人・父へ説明、父の文書同意、父と担当指定障害児相談支援事業者への交付を予定。10月13日から更新支援を予定。Bは2週間記録し、Aは11月上旬に途中確認する。

13 一行メモから次の支援を決める

結果と支援を並べる

モニタリングは、一行メモを計画の条件に合わせて読むことから始まります。9月10日の「写真で予告。『まだ』と言い1分追加。その後移動」という記録を、目標に照らして整理してみましょう。

時間の起点をそろえる

この事例では、本人が選んだ追加の遊びが終わった時点を「遊び終了」として、移動までの2分を測ります。初期の記録も同じ起点で確認します。起点が不明な記録は、比較できる材料としての確認が必要です。

評価文へ仕上げる

文例：写真の予告と片付け箱を用意した8機会中6機会、遊び終了後2分以内に移動した。追加時間を選んだ場合は、その遊びが終わってから計測した。音が重なった2機会では休憩後に移動した。写真を継続し、声かけが重ならない位置と休憩の選択を加える。

この文章を書く理由

集計の条件、本人の選択、負担が増えた場面、次の方法を一続きにしています。6/8は今回の記録の説明です。少ない機会の結果として扱い、次の確認で安定性や生活への広がり確かめます。

次に確かめることを書く

文例：Bが10月6日から音・予告・休憩の選択を記録し、11月上旬にAが本人と母へ途中確認する。担当と時期を添えると、総合評価が実際の行動につながります。

14 短いメモを伝わる文章に整える

文例 1

書き始めのメモ 順調である。

支援につながる文章 見本 1 回以内の援助要求は 7/10 機会。別職員への要求は未確認。次月に確認する。

文例 2

書き始めのメモ 母は満足している。

支援につながる文章 母は予告が使いやすいと話す。一方、夕方の実施は負担。本人は休憩を選ぶ場面が増えた。

文例 3

書き始めのメモ 欠席が多く未達成。

支援につながる文章 評価対象は 2 機会で判断材料不足。欠席の背景を母に確認し、通所の負担と支援機会を検討する。

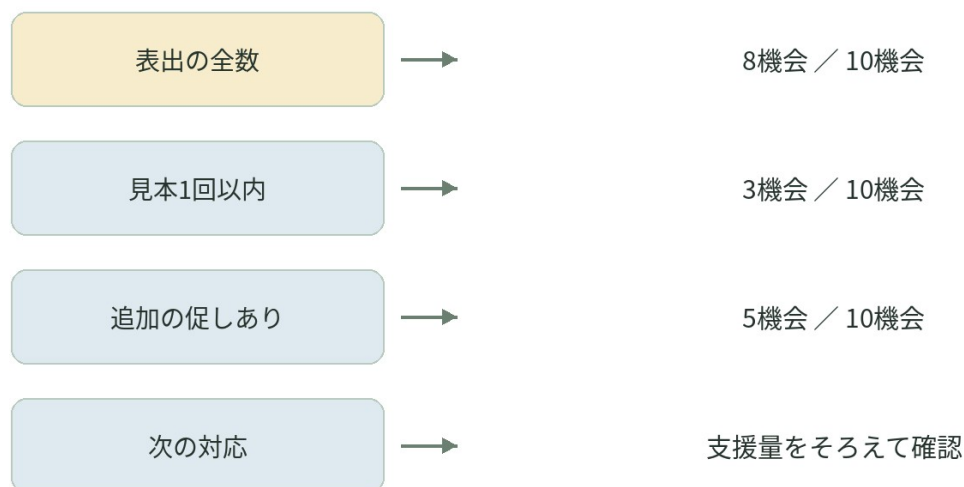
文例 4

書き始めのメモ 毎回泣くので訓練を増やす。

支援につながる文章 泣く場面の直前の音・要求・休息を再評価。本人の拒否を受け止め、環境と方法を見直す。

実数と条件、家族の暮らし、次の確認を残すと、継続と調整の理由を説明できます。

15 判断の手がかりを図で整理する



負担の増加や生活の変化があれば、予定を早めて見直します。欠席の増加、強い拒否、睡眠や体調、園の環境の変化は、本人と家族に状況を確認する手がかりになります。

現場で確かめること

家族には、役立った方法から説明します。「写真があると準備しやすい場面が増えました。音が重なると休息が必要なので、静かな位置を用意したいと考えています」と伝え、調整の目的を共有できます。

面談で新たな安全上の課題が分かった場合は、必要な対応を速やかに共有します。本人・家族への説明と対応の経過を記録し、計画の更新も進めます。

16 場面を読んで書いてみる

目標は「写真の見本1回以内で困ったことを伝える」です。前月4/10機会、今月8/10機会でした。ただし今月は5機会です。促しを繰り返していました。目標条件での結果と、次の支援を書いてみましょう。



答案を書く順番

場面の事実を選び、支援の条件を添え、次に行うことを決めます。自分の答案を書いた後、次頁の解答例と比べましょう。

17 解答例から書き方を確かめる

解答例

今月の表出は合計 8/10 機会。見本 1 回以内という目標条件での表出は 3/10 機会だった。前月 4/10 機会との比較は、この条件で行う。繰り返しの促しに対する本人の表情や負担を追加確認する。

カードを使いやすい位置に置き、見本の回数と記録方法を職員間でそろえる。本人が選ぶ時間を確保し、表出の有無にかかわらず必要な援助を行う。2 週間、支援量と反応を合わせて確認する。

解説

全体の表出と目標条件での表出を分けることが解答の要点です。両方を残すと、本人の伝え方が増えたことと、今後調整する支援量が読み取れます。

練習の機会は、自然な生活の中で選びます。空腹や苦痛への対応は速やかに行い、安心して援助を受けられる関係を土台にします。

自分の答案を読み返す

本人の姿と、周囲が用意した支援をそれぞれ指で示してみましょう。次にすることが読めれば、記録を支援へつなげられます。文例の数値や方法は、本人と場面に合わせて選びます。

18 自分の事例で一枚を作る

最初は、確認できた事実から書きます。情報源と日付、本人の希望、役立つ条件を添え、事業所の正式様式へ整理して転記します。

本人 ID／確認日／対象計画の版

目標文／評価する場面と支援条件

実施状況／予定どおり行えなかった点

本人の変化／期間・実数・支援量

本人の意思・負担／保護者の意向

判断／継続・変更・終了・判断保留の理由

次の対応／担当・期限・途中確認日

計画変更手続／説明・同意・交付の予定

19 実務で必要な手続を確認する

日常の把握と定期見直し

日々の記録と家族との連絡を通じて実施状況を把握します。少なくとも6か月に1回以上、計画を見直し、必要に応じて変更します。

本人と保護者への面接

特段の事情がない限り、本人と保護者に定期的に面接し、結果を定期的に記録します。写真の選択や遊びなど、本人に合う方法も使います。

更新の手続につなぐ

変更時はアセスメント、原案、会議、説明・文書同意、交付へ進めます。安全確保など直ちに必要な対応は速やかに行い、理由と経過を記録します。

言葉の意味を確かめる

モニタリング 支援の実施と変化を確かめ、計画を見直すこと。

支援量 見本や声かけなど、本人に用意した助けの程度。

計画期間、目標数値、教材の配置、会議の進行時間など、本書の架空例の設定は、本人と事業所の状況に合わせて調整します。

20 完成を確かめ根拠資料へ進む

- ☐ 対象計画と期間が明確。
- ☐ 実施した方法を確認した。
- ☐ 本人・保護者に面接した。
- ☐ 実数と条件を記載した。
- ☐ 本人の意思と負担を確認した。
- ☐ 判断に理由がある。
- ☐ 次の担当・期限が明確。
- ☐ 必要な更新手続を予定した。

参照した国と自治体の資料

指定通所支援の運営基準

第 27 条：計画作成・モニタリング／第 54 条：記録保存／第 83 条：電磁的な手続

児童発達支援ガイドライン（2024 年 7 月）

第 3 章：支援の内容／第 4 章：個別支援計画の作成と支援

こどもの意思の尊重・最善の利益の優先考慮の手引き

意思の形成・表出を支える工夫と、支援への反映

堺市 指定障害児通所支援事業者等に対する運営指導について

2026 年 4 月 1 日更新：利用契約後の計画作成手順、支援時間等

資料確認日 2026 年 10 月 4 日。本書は、はまなす行政書士事務所の独自制作教材です。物語、文例、図解、挿絵は学習用に制作しました。参照資料の趣旨を踏まえた作成方法の提案と、制度上の手続を区分しています。運用時は最新の通知と指定権者の取扱いを照合します。